

第3期
標茶町創生
総合戦略



令和7年4月

標茶町

目 次

第 1 基本的な考え方

1	戦略策定の趣旨	2
2	戦略の期間	2
3	戦略の設定人口	2
4	重点戦略（標茶町人口ビジョンにおける対応方針からのアプローチ）	3
(1)	基幹産業である酪農畜産業の振興	3
(2)	安心して子どもを産み育てることができる環境整備	3
(3)	交流人口の拡大と雇用の場の確保	3
5	基本戦略（総合計画における基本構想からのアプローチ）	4
6	効果的な推進管理	4
(1)	K P I（重要業績評価指標）に基づく進捗管理	4
(2)	P D C A サイクルによる戦略の推進	5
(3)	産学官労言による推進体制の強化	5

第 2 重点戦略（標茶町人口ビジョンにおける対応方針からのアプローチ） 6

1	基幹産業である酪農畜産業の振興	6
2	安心して子どもを産み育てることができる環境整備	6
3	交流人口の拡大と雇用の場の確保	7

第 3 基本戦略（総合計画における基本構想からのアプローチ） 8

1	みんなで魅力と価値を生み出すまち	8
2	みんなで支えあう健やかなまち	10
3	みんなが安心して暮らせるまち	12
4	みんながいきいき学んで育つまち	14
5	みんなで創造できるまち	16

第1 基本的な考え方

1 戦略策定の趣旨

標茶町に関する歴史の中で最も古い人口の記録は、文政5年（1822年）に、シヘツチャ村戸数19軒、人口81人、ニシヘツ村戸数15軒、人口71人、トウロ村戸数14軒、人口63人と「クスリ場所引渡一件書物写し」に記載されている。193年前のことである（計215人）。

標茶町では、昭和に入ると国鉄釧網線や標津線の全線開通、製糖工場や製麻工場の操業開始、雪印乳業磯分内工場の完成、また昭和30年（1955年）の太田村チャンベツ地区の合併などを経て、昭和38年（1963年）に、人口18,539人（住民基本台帳人口）を記録しているが、昭和30年代前半（1960年代）から日本経済が上昇に転じる中、それに伴い農村部から都市部へと労働力が流れ始め、更には製麻工場や製糖工場の操業停止などを受け、昭和59年（1984年）に11,000人台となり、平成9年（2006年）には10,000人を割り込んだ。

このように本町では、国全体の人口減少よりも早く、加速度的に人口減少は進んでおり、今の状況では、人口増加は見込めず、今後においても少子化と超高齢化が相乗し、更に人口減少が進むことは否定しがたい事実である。これにより、地域経済は疲弊し、地域の存続にも極めて深刻な事態となる。

しかし、標茶町が未来へ続くことは町民誰もが望むところであり、そのために、誰もが「住んで良かった、これからも住み続けたい」と思えるまちづくりを目指し令和3年（2021年）に町民の協力を得て策定した、「標茶町第5期総合計画」を基本とし、国が2020年度を初年度として策定した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」及び第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案しながら、今後5年間の政策目標や施策の基本的方向、主な施策を定めた「第3期標茶町創生総合戦略」を策定する。

2 戦略の期間

標茶町における短中期的な見地から施策を計画的に実施するため、令和7年度（2025年度）から令和11年度（2029年度）の5年度間とする。

3 戦略の設定人口

標茶町人口ビジョンにおける将来展望を踏まえ、令和11年度（2029年度）の設定人口を6,100人とする。

4 重点戦略（標茶町人口ビジョンにおける対応方針からのアプローチ）

人口ビジョンの分析結果として、人口減少に大きく影響を及ぼすのは、若年層と子育て世代の流出である。

このことに対しては、第1に本町経済の主軸である酪農畜産業のさらなる活性化を図る施策が必要であるが、需要者であるサービス産業の役割も大きく、その活性化もまた重要である。

また、若年層の流出と合わせて、子育て世代の流出も見られることから、この世代の流出を抑制する施策も必要である。

以上の人口流出の抑制策と合わせて、いかに本町への転入者を増やすかということも視野に入れる必要がある。このことは、単に人口の流入を促すということよりも、安心して住み続けられことが必要であり、経済的な自立をしてもらうためにも、いわゆる「働ける場所」が必要である。

すなわち、人口の流出の抑制と流入の拡大は、安定した雇用が確保された中で発揮されるものであり、この対策が急務である。

このことを踏まえ、以下の3点を重点戦略として今後取り組むものとする。

(1) 基幹産業である酪農畜産業の振興

草地更新の促進等に対する支援として標茶酪農再興事業を継続実施し経営安定を図りながら、「しべちゃ農楽校」を核として、新規就農に向けた研修と酪農体験の場とすることで担い手の育成を図る。

また、標茶町農学ゼミナールを運営し、若手農業者や、農業後継者に学びの場を提供するとともに、様々な機会でしべちゃ牛乳を始めとする乳製品を全国にPRすることにより、酪農畜産業の更なる発展を目指し、離農戸数を抑制しながら、地域の活性化を目指す。

(2) 安心して子どもを産み育てることができる環境整備

出産や育児をするうえで、心配の一つとして経済的な負担をあげる夫婦が多い。この負担感を取り除き、少しでも安心して出産や育児ができる環境を整える必要がある。

そのために、子育て世代に対し、医療費の還元や保育料無料化などの経済的な支援を継続し、老朽化の進む町内保育施設の建て替えや維持補修を計画的に実施していき、子育て環境を整備する。

(3) 関係人口・交流人口の拡大と雇用の場の確保

人がその場所に住み、生きていくためには、「働ける」ということが重要であり、特に、若い世代の就労の場の確保は急務である一方、人手不足の職種も多く存在することから、標茶に「居たい」・「住みたい」と思っているすべての世代が活躍できる地域社会を目指す。その為に、町内で暮らす人々が快適に利用できるように、老朽化の進む公共施設の計画的な維持補修や、建て替えについても検討していく。

また、標茶町に多様な形で関わる人々「関係人口」を地域の力にしていけることに加え、標茶町を積極的にPRすることにより、「交流人口」の拡大と移住の動議付けな

を図る。

5 基本戦略（総合計画における基本構想からのアプローチ）

「標茶町創生総合戦略」の構成は、令和3年に策定した「標茶町第5期総合計画」を基本とする。

第5期総合計画策定の趣旨は、少子高齢化や人口減少に対応した安全・安心な「生活の確保、多様化・高度化する住民ニーズへの柔軟な対応をしながら、地球温暖化などの環境問題、地域医療の確保、新たな情報通信への対応をしていくことである。多くの課題を抱えるとともに、民間投資の停滞や消費低迷などによる町税の減少、地方交付税の交付金の縮減などにより、町の財政は依然として厳しい状況にあることから、引き続き行財政改革に取り組む中で、身の丈にあった持続可能な行財政運営が必要となる。このような状況の下、町民・企業・団体の皆さんと力を合わせ、時代の潮流を捉えながら、本町の産業特性や個性を生かしたまちづくりを進めていくため、将来を見据え「住んでよかった、これからも住み続けたい」と思える標茶町を築くため、長期的視野の立ったまちづくりの指針となるべく策定したものである。

このことは、当該創生総合戦略の基本的なスタンスと同様な考え方であることから、総合計画が基本に据えた各種施策や事業を戦略として展開して行くものである。

次に示す基本構想を柱に戦略を策定し、まちづくりのテーマである「みんないきいき みんなでつくる 自然とともに生きるまちしべちゃ」をめざす。

「みんないきいき みんなでつくる ～自然とともにいきるまち しべちゃ～」の実現に向け、まちづくりの基本目標を次のとおりとします。

1. みんなで魅力と価値を生み出すまち
2. みんなで支えあう健やかなまち
3. みんなが安心して暮らせるまち
4. みんながいきいき学んで育つまち
5. みんなで創造できるまち

6 効果的な推進管理

(1) KPI（重要業績評価指標）に基づく進捗管理

創生総合戦略に掲げる施策の進捗度を客観的に把握するため、戦略の柱ごとに数値目標を設定する。

また、KPI（重要業績評価指標）は、重点戦略に関しては具体的な施策・事業ごとに、基本戦略については柱ごとにまとめて設定し、毎年度の戦略の進捗管理の基本データとして活用する。

KPI（Key Performance Indicators / 重要業績評価指標）

- ・ 目標の達成度合いを計る定量的な指標のこと。

(2) P D C Aサイクルによる戦略の推進

創生総合戦略を着実に推進するため、毎年度、戦略の実施状況を検証し、必要に応じて見直しを行うP D C Aサイクルを実施する。

P D C Aサイクルにおいては、本町が実施する「標茶町行政サービス評価システム」と連動した政策評価の仕組みを構築するとともに、その評価結果を踏まえながら、各種委員会等における議論を通じ、検証と見直しを実施する。

P D C Aサイクル

- ・ 計画（Plan）～実行（Do）～評価（Check）～改善（Act）という4段階の活動を繰り返し行うことで、継続的に業務プロセスを改善していく手法

(3) 産学金官労言による推進体制の強化

創生総合戦略を幅広い関係者の連携のもとで効果的に推進するために、「標茶町総合計画審議会」及び「標茶町振興委員会」、また施策・事業ごとに、個別に関係者の意見を聴取する体制の構築に取り組むなど、プロジェクトや施策の推進における体制の充実を図る。

産学金官労言

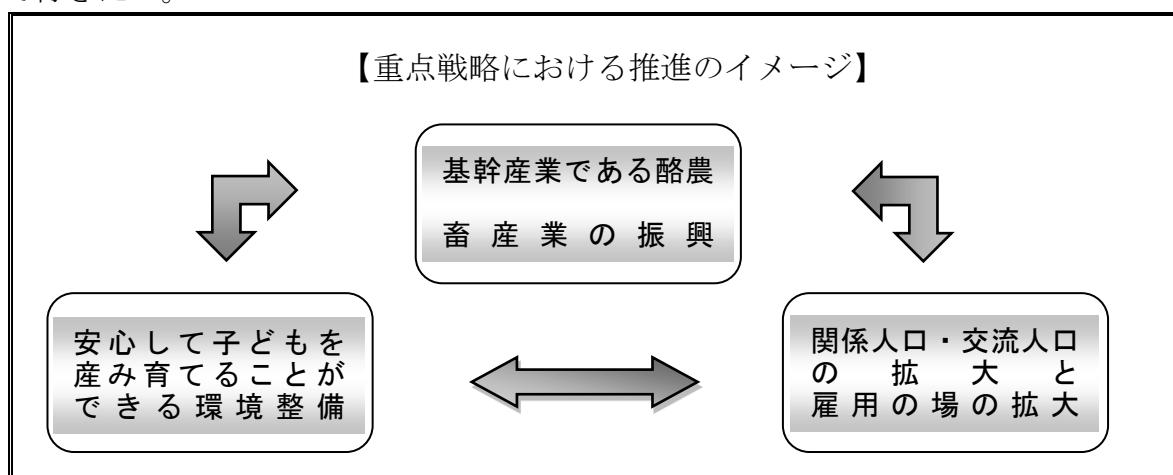
- 「産」→ 経済・産業関係団体、保健・福祉関係団体、企業等
- 「学」→ 大学、教育機関、研究機関等
- 「金」→ 金融機関
- 「官」→ 国、都道府県、市町村等
- 「労」→ 労働組合、労働関係団体等
- 「言」→ 報道機関等

第2 重点戦略（人口ビジョンにおける対応方針からのアプローチ）

本町における人口減少は、人口ビジョンに示したとおり、社会減が大きく影響している。

この状況を改めるために、基幹産業である第1次産業の安定化を図り、この安定化が第2次産業、第3次産業の活性化につながるの思いから、そのサイクルの確立をめざす。

また、各種調査において、雇用の場がなく、経済的な不安定さから住みたくても住むことができないという声もあることから、次の3点を重点的に取り組むことで本戦略の実効性を高めて行きたい。



1 基幹産業である酪農畜産業の振興

(1) 数値目標 令和11年度

指 標	現 状	目標数値
離農農家抑制戸数	6戸／年減少 (過去5年平均)	5年間で 25戸
新規就農戸数	0戸～1戸／年	5年間で 5戸

(2) 基本的方向

町内及び管内、管外の産業団体及び経済団体と連携し、魅力ある酪農畜産業の振興をめざすとともに、しべちや農楽校を核として、酪農業の持つ魅力を学んでもらい、一人でも多くの研修生が本町で就農できる体制の構築を図る。

(3) 主な施策

具体的な施策・事業		評価指標 (KPI)
多様な生産活動の推進	一次産業の活性化 (生乳生産量の拡大)	生乳生産量 令和11年 172,500t
担い手の育成	標茶町農業研修センター “しべちや農楽校”の管理・運営	新規就農戸数 5年間で 5戸

2 安心して子どもを産み育てることができる環境整備

(1) 数値目標 令和 11 年度

指 標	現 状	数値目標
出生数	38 人／年 (過去 5 年平均)	5 年間で 200 人
合計特殊出生率	H30～R4 1.38	5 年後で 1.66

(2) 基本的方向

子育て世代に対し経済的な支援を図り、利用者のニーズに沿った子育て支援を実施することで、安心して子を産み、子育てができる環境を充実させる。

(3) 主な施策

具体的な施策・事業		評価指標 (KPI)
子育て支援の充実	大学生までの医療費の無料化	5 年平均 11,000 千円の支援
子育て環境の整備	町内保育施設の計画的な維持補修・建て替え	5 年間で 1 件の完了

3 関係人口・交流人口の拡大と雇用の場の確保

(1) 数値目標 令和 11 年度

指 標	現 状	数値目標
転入者数	280 人／5 ヶ年平均	5 年平均 280 人以上
転出者数	330 人／5 ヶ年平均	5 年平均 330 人以下

(2) 基本的方向

若者の就労の場の確保と合わせ、転入者や移住希望者への情報提供と受け皿の環境を整備し、転出超過の状況を改善する。

合わせて、潜在的移住・定住者「関係人口」に係る取組により、標茶町へ誇りを持つ町民を増やす。

(3) 主な施策

具体的な施策・事業		評価指標 (KPI)
教育環境の充実	標茶高等学校教育振興会補助事業	入学者数 毎年 60 名
関係人口の創出	ふるさと寄附記念品贈呈事業における寄附件数の増加	5 年平均 12,000 件
雇用環境の安定化	標茶町 GOGO チャレンジ支援事業補助金交付件数	利用件数 35 件 (5 年間で)

第3 基本戦略（総合計画における基本構想からのアプローチ）

1 みんなで魅力と価値を生み出すまち

(1) 数値目標

令和11年度までに温室効果ガス総排出量を5,738,272（kg-CO₂）以下にする。

(2) 基本的方向

本町は、国内のみならず世界から見ても価値のある大自然に恵まれ、酪農畜産業をはじめとする各産業の振興にも大きく寄与している。

自然がもたらすあらゆる機能を維持していくためには、適正かつ計画的な環境保全活動を推進していくとともに、ワイズユースを進めることにより自然の価値を再確認し、保全に対する意識を高めていくことが必要である。

また、産業面では担い手不足が共通して見られていることから、基幹産業である酪農畜産業の働き手を確保することや、自然を活かした体験型観光を促進するなど、安定した雇用を確保する中で各産業の活性化につなげる施策を展開していく。

(3) 主な施策

① ゼロカーボンに向けた取組の強化

※ ゼロカーボンの推進
・令和12年度までに温室効果ガスを5,543,500（kg-CO ₂ ）にするために、公共施設における再生可能エネルギーの導入または、省エネルギー設備の導入を計画的に行う。
◎ 重要業績評価指標（KPI）
・公共施設の再エネ導入、省エネ設備の導入 令和11年度までに5件

② 地域ブランド力の強化

※ 牛乳消費拡大の推進
・本町の基幹産業は酪農である。しかし、全国的な知名度は十分なものではないため、しべちゃ牛乳を全国にPRし、知名度の向上を図り、ブランド力を強化する。
◎ 重要業績評価指標（KPI）
・ふるさと納税におけるしべちゃ牛乳注文件数 5年間で100件

③ 観光産業の強化

※ ぽんぽんゆを中心とした観光入込客数
・ 令和 6 年度にグランドオープンしたぽんぽんゆを中心とした、観光産業の活性化を図る。
◎ 重要業績評価指標（K P I）
・ 標茶町観光入込客数の増加 5 年間で平均 1, 295, 000 人以上

④ 家畜自衛防疫体制の強化

※ 家畜防疫事業補助
・ 家畜の伝染病発生を予防するため自衛防疫の組織を推進し、家畜の健康保持と生産性向上を図ると共に畜産物の衛生指導を推し進め、健全な畜産物を生産出荷することによって、畜産農家の経営安定に寄与する。
◎ 重要業績評価指標（K P I）
・ 町内における牛サルモネラ症の発生件数の抑制 15 件以下/年

⑤ 造林体制の維持・強化

※ 造林事業の推進
・ 町有林の計画的造成と、人工林地の保育管理に努め生産性の高い林分造成を目指す。併せて林業労働者の事業の確保に寄与する。
◎ 重要業績評価指標（K P I）
・ 町内における新植 5 年間で平均 15ha 以上

⑥ 有害鳥獣の適正駆除を行い、自然との共生を図る

※ 有害鳥獣駆除事業
・ 鳥獣による農林水産業被害の防止及び環境衛生の維持を目的として対象鳥獣の適正駆除を実施。
◎ 重要業績評価指標（K P I）
・ 町内における被害額 5 年間で平均 32, 300 千円以下

2 みんなで支えあう健やかなまち

(1) 数値目標

「地域子育て支援事業」で実施する「子育てサロン」、「子育て講座」、「相談支援」の利用者数（令和 11 年度までの 5 ヶ年平均延べ人数）が 1,900 人以上。

(2) 基本的方向

本町の人口減少の一番の要因は若年層の人口流出であり、特に子育て世代の流出が顕著であることから、子どもを安心して産み育てることのできる環境を整えることが必要となる。

また、少子高齢化も進行しており、単身世帯の増加や地域行事の衰退などから、地域・家庭・職場という日常の暮らしの中における支えあいの基盤が弱まっています。多様な世帯が増え、抱える悩みや課題も複雑化していく中で、一人で抱え込まず共有し解決できる体制と環境づくりを、当事者に寄り添い実態にあったかたちで進めていく必要がある。

町民が地域において自立した生活を送ることができ、次世代の社会を担う子ども一人ひとりの育ちを「まち全体」で応援できるよう、地域共生社会の実現が求められていることを踏まえながら、誰一人不幸にすることなく、全ての町民が幸せになることを目指し、ともに支え合うことのできる協働のまちづくりを進めていく。

(3) 主な施策

① 高齢者に対する支援体制の充実

※ 高齢者の生きがいづくり
・ 標茶町高齢者事業団への支援や、各地域の老人クラブへの支援等を通じ、高齢者が生きがいをもって活躍できる環境を整える。
◎ 重要業績評価指標（KPI）
・ 令和 11 年度の地域老人クラブ数 9 件

② 障がい者（児）に対する支援体制の充実

※ 障害児への教育の充実および社会参加の促進
・ 障害者（児）に対して必要な介護給付・訓練等給付費等の各種支援および、身体障害者（児）の日常生活や運動機能の向上を図るため、失われた身体機能を補うための用具の交付及び修理への支援等を行い、自立に向けた支援体勢を整える。
◎ 重要業績評価指標（KPI）
・ 障害者自立支援給付事業による支援 5 年平均 300,000 千円以上

③ 子育て支援の充実

※ 子育て支援・子育て環境の整備
・安全に楽しく遊べる遊具が充実している公園の整備とともに、保守点検や維持管理を強化する。
※ 子育て世帯への経済的支援
・保育園、幼稚園～中学校までの給食費を無料化することにより、子育て世帯への経済的負担を軽減する。
◎ 重要業績評価指標（KPI）
・令和11年度まで都市公園における事故発生件数 0件 ・令和11年度まで給食費による子育て世帯負担 0円の継続

④ 高校教育の確保

※ 高校教育の確保
・標茶高校の2間口を維持し、将来を含めて高等教育の拠点となるために、道外からの生徒の呼び込みや、寮の整備など様々な取り組みを展開し、生徒の確保に努める。
◎ 重要業績評価指標（KPI）
・令和11年度まで標茶高校 2間口の維持

⑤ 介護予防事業体制の強化

※ 介護予防事業の推進
・介護が必要になる可能性が高い高齢者の実態を把握し、介護予防活動へつなげる。さらに、介護予防のための知識を普及し、セカンドライフを意欲的に活動できるきっかけづくりとして介護予防教室を各地域で展開するなど、各種介護予防事業を積極的に展開する。
◎ 重要業績評価指標（KPI）
・アクティブシニア教室の開催 年間5回以上 ・老人クラブ等での高齢者質問票を活用した健康相談の実施 年間5か所以上

3 みんなが安心して暮らせるまち

(1) 数値目標

各種施策を実施しながら、5年間で人口の社会動態を基準値△267（令和元年～5年度累計）から抑制する。

(2) 基本的方向

東日本大震災をはじめ、全国各地では記録的集中豪雨や大型台風の通過など大規模自然災害が多発しており、本町においても台風や季節外れの降雨と融雪により河川が氾濫するなど、防災・減災対策が急務となっている。

また、高齢者の移動手段の確保が課題となっていることから、町民が安心して買い物や通院ができる市街地内の地域密着型バスの運行環境の検討を継続するとともに、行政手続きのオンライン化など、ICTをさまざまな分野で効果的に活用し、新たな生活様式の実現に向けた取り組みを進める。

安全・安心な日常生活を送るためには、公共インフラの整備はもちろん、一人ひとりが正しい知識と行動を身につけることや、地域コミュニティ内による助け合いなど、自助・共助・公助が十分に機能する仕組みづくりが重要であり、相互連携が図られるよう密な情報共有と計画的施設整備が必要である。

住みなれた地域で子どもから高齢者まで誰もが安全・安心に生活できる、これからも住み続けたいと思える環境づくりを進める。

(3) 主な施策

① 防災・減災対策の強化

※ 防災・減災対策の推進
・いつ発生するか分からない大規模自然災害に備え、防災教育を含めた防災対策を実施する。内水氾濫による水害対策及び事前行動計画タイムラインの策定や、非常用備蓄品の整備を計画的に進める。
◎ 重要業績評価指標（KPI）
・町内会地域会・学校等への防災教育の実施回数 5年間で5回

② 公共インフラの強化

※ 老朽化の進む公共インフラの計画的な維持・補修
・老朽化の進む、配水管の更新及び迅速な事故対応、町道の維持・補修、通信施設の維持・管理などを計画的に進めていく。
◎ 重要業績評価指標（KPI）
・令和11年度までに、地上デジタル放送無線共聴施設及び中継局の更新完了（計5施設）
・令和11年度まで、長期間（1週間以上）におよぶ断水の発生 0件

③ 地域商店の活性化

※ 地域商店の活性化に向けた取組の推進
・ 地域商店は高齢化が進み、担い手問題が深刻化している。このことから、商工会と連携しながら、様々な取組を展開し UIJ ターンによる起業・就業者の確保や、空き店舗の利活用等を推進しながら、地域の活性化に期待のできる物産センターの建設を目指す。
◎ 重要業績評価指標（K P I）
・ 令和 11 年度まで、UIJ ターンによる就業者数 年平均 2 人 ・ 令和 11 年度までに物産センターの建設

④ 自治体 D X の推進

※ 自治体 D X に向けた取組の推進
・ 「デジタルガバメント実行計画」における自治体の情報システムの標準化・共通化などでデジタル社会構築に向けて各施策を効率的に実行していくために、様々な施策を展開する必要があることから、デジタル技術や AI 等の活用により業務効率化を図り、人的資源を行政サービスのさらなる向上につなげる。
◎ 重要業績評価指標（K P I）
・ 11 年度までに、町内におけるマイナンバーカード普及率 80% ・ 11 年度までに、職員の年間時間外勤務を 2 割減（令和 6 年度ベース）

⑤ 自然環境の保護・保全

※ 自然環境の保護・保全に向けた取組の推進
・ 広大な自然を有する標茶町では、自然環境との共生が大きなテーマである。自然環境を保護・保全するために、近年問題となっている太陽光発電設備をはじめとする再生可能エネルギーと、自然との共生を図りながら、景観を保護していくための取り組みを進める。
◎ 重要業績評価指標（K P I）
・ 令和 11 年度までに、自然環境の保護・保全のために必要な計画を策定し、推進する。（環境基本計画、地球温暖化防止実行計画など）

4 みんながいきいき学んで育つまち

(1) 数値目標

令和11年度までに、町内でのスポーツ合宿の実施30件

(2) 基本的方向

まちづくりの主役は町民であり、これからの地域形成や活性化には「このまちにずっと住んでいたい」「このまちを元気にしたい」と考える活力ある地域人材の育成が不可欠であり、また、歴史ある文化や積み重ねてきた経験を繋ぎ、残していくことも重要である。

本町には、北海道標茶高等学校をはじめ、各教育現場で地域に根差した特色ある教育が進められており、子どもたちがいきいきと学ぶ環境づくりを継続して推進していく必要となる。

また、文化活動やスポーツ、多様な文化を持った人々との交流などを通じて、子どもから高齢者まで生涯にわたり、この地域でしか得られない楽しみや生活への満足感を生み出す機会を創出することは、新たに何かを始める向上心を育む。

誰もが今後のまちづくりの一翼を担うことから、まちへの愛着心と向上意欲のある人づくりに努めていくとともに、我が町の財産を次の時代へ引継ぎ活かす取り組みを進める。

(3) 主な施策

① 教育環境の整備

※ 多様なニーズに対応した教育の推進
・部活動の地域移行や、授業のデジタル化など、教育が多様化する中で、これらに対応できる体制づくりを推進する。
◎ 重要業績評価指標（KPI）
・クラブ活動助成事業活用校数 9校 ・学習教材費サポート事業による支援 5年平均4,000千円以上

② スポーツ振興体制の強化・充実

※ スポーツ振興体制の強化・充実に向けた取組の推進
・子どもから大人まで、幅広い層の町民がスポーツを身近に感じることでできる体制を整える。体育施設の維持・補修や、各種スポーツ大会や講師を招いてのイベントの開催など、スポーツ振興に寄与する取組を計画的に展開する。
◎ 重要業績評価指標（KPI）
・町内スポーツ施設利用者数 5年平均43,000人以上 ・標茶町スポーツ振興助成金事業による支援 5年平均150人以上

③ 地域文化振興体制の強化・充実

※ 地域文化振興体制の強化・充実に向けた取組の推進
・ 本町はアイヌ語が地名の由来にもなっていることから、古くから独自の文化を有している。後世にこれらの文化を伝えていくことから、博物館の維持・管理を計画的に実施し、博物館事業を通じて町民だけではなく、町外の人たちにも本町の文化を広く伝えることに寄与する取組を計画的に展開する。
◎ 重要業績評価指標（KPI）
・ 博物館ニタイ・ト入館者数 5年平均6,000人以上

④ 生涯学習活動の充実

※ 生涯学習活動の充実・充実に向けた取組の推進
・ 趣味を持ち健康的な生活とスポーツを楽しむことや、健やかで充実した生活を営むことができる環境づくりを推進する。たんちょう大学や、各地域公民館で行われている各種講座等を通じ、高齢者への学習機会の提供を計画的に実施していく。
◎ 重要業績評価指標（KPI）
・ 各公民館で行う公民館講座の実施回数 年間10回以上

⑤ 図書館活動の充実

※ 図書館活動の充実に向けた取組の推進
・ 広く町民が本に触れることができるよう、図書館活動の充実を図る。蔵書のより一層の充実および、移動図書館車による定期巡回による貸し出しや、ブックスタート事業等を計画的に展開する。
◎ 重要業績評価指標（KPI）
・ 令和11年度までに、蔵書数 115,000冊以上

5 みんなで創造できるまち

(1) 数値目標

令和 11 年度までに、町内への新規移住者数 20 名

(2) 基本的方向

通信技術の進歩や新型コロナウイルス感染症の拡大など社会環境が大きく変化し、住民のライフスタイルや価値観、求められるニーズも多様化していく中で、行政は今後、未来に向けて、より町民とともに作り上げる行政運営を進めていく必要がある。

少子高齢化が進行すると、自助・共助の力が低下してしまう可能性があります。身近な問題を町内会地域会、ボランティア、NPOなどが率先してサポートしていくことが元気なまちの理想であり、担い手不足などの課題については、引き続き町民と行政がともに協働する中で解決をしていく必要がある。

また、人口減少などの課題においては、「今の住民サービスをいつまで継続できるのか」「どうすれば効果的なのか」などを広域的視野に立って検討しなければ、持続的な行政運営が難しい時代になってきている。

さらには、ふるさと納税や企業版ふるさと納税などの事業を進める中で、本町に関わりのある関係人口や企業を増やしていくことで、まちの活性化を図っていく必要がある。

まちづくりの主役は町民であることから、町民と行政とが密に情報共有を行える場の設定や、地域がいきいきと活動できるための支援などを引き続き進めるとともに、関係人口や関係企業を巻き込み、未来ある行政運営を進めていく。

(3) 主な施策

① タウンプロモーション推進体制の強化

※ タウンプロモーション強化に向けた取組の推進
・少子高齢化や人口流出によって経済力の低下や産業の衰退など、自治体を維持していく観点からも「まちを知ってもらう」「まちに来てもらう」「まちを元気にする」ことを目的とするタウンプロモーションの取組みが必要である。これらの取り組みを広く展開し、移住者や関係人口・交流人口の増加につなげる。
◎ 重要業績評価指標（KPI）
・お試し住宅利用者数 5年平均10件以上 ・令和11年度までに、お試し住宅利用からの移住者数 1件以上

② 廃校施設の利活用

※ 廃校施設の利活用に向けた取組の推進
・町内には廃校となったあと、未利用のままとなっている施設が3カ所存在する（弥栄、阿歴内、久著呂）。これらの利活用の方法を検討し、関係人口・交流人口の増加につなげる施策を展開する。
◎ 重要業績評価指標（KPI）
・令和11年度までに、いずれか1カ所の利活用を図る。

③ ふるさと納税を通じた地域の魅力発信

※ ふるさと納税を通じた地域の魅力発信に向けた取組の推進
・ふるさと納税制度を通じて、地域の魅力を日本全国に発信することにより、地域経済の活性化に寄与する。
◎ 重要業績評価指標（KPI）
・令和11年度までに、5年間平均寄附額 300,000 千円以上

ハッピーくろべえ



ミルクックさん



発 行 北海道標茶町 企画財政課

発 行 日 令和7年4月

〒088-2312

北海道川上郡標茶町川上4丁目2番地

TEL (015)485-2111

FAX (015)485-4111

<http://www.town.shibecha.hokkaido.jp/>

E-mail :k_kikaku@town.shibecha.lg.jp